令和5年度学校評価 計画

## 学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度(評価)

A: 十分達成できている B: おおむね達成できている

C: やや不十分である D: 不十分である

学校名

嬉野市立大草野小学校

前年度 評価結果の概要

・共通実践として学習過程の中に書く活動・交流する場面を取り入れ、児童が生き生きと表現し学ぶ意欲を高める授業づくりに継続して取り組む必要がある。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための取組の充実や組織的対応の一層の充実を図る必要がある。また、夢や希望・思いやりの心など豊かな心を育む児童支援及び学級経営を継続して行う。 ・各種行事の見直しを含む業務内容の改善、情報の共有化、協同性の推進を図りながら職員の意識改革を進め、働きがいのある職場づくりをめざすことで、業務効率化を進める。

学校教育目標

## 笑顔いっぱい、生き生きと学び合う蛍っ子の育成

3 本年度の重点目標

① 学び続ける子どもの育成 ((1) 生き生きと表現し、わかる授業の工夫 (2) 読書教育の充実 (3) 望ましい学習習慣と学習態度り育成 ) ② 思いやりのある子どもの育成 ((1) 当たり前のことが当たり前にできるようにする指導の徹底 (2) 自分や相手の良さを認め合う心の育成 (3) 自主的・自発的な態度の伸長 (4) 特別支援教育の充実 ) ③ たくましい子どもの育成 ((1) 運動習慣の推進 (2) 健康的な生活習慣の定着 (3) 食育の推進 (4) 危機回避能力の向上 )

重点取組内容・成果指標 					中間評価		5 最終評価			
共通評価項目									主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		工作担当有
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	共冲凹枞粗	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上		○「授業がわかりやすい」と答える児童 の割合を80%以上にする。 ○「自分の考えを友達に伝えることでき る。」と答える児童の割合を80%以上に	・学習過程の中に自分の考えを書く活動を 意図的に設定し、グループや全体で交流す る中で考える力や説明する力を育てる。	В	・「授業わかりやすい」と答えた児童は86%であった。最終評価へ向けて90%を目指したい。 ・「自分の考えを友達に伝えることできる。」と答えた児童は79%であった。授業の中に「伝える」時間をきちんといち付けて取り組んでいく。		•		•	学力向上CO(川島) 研究主任(木原) Head部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動		・ふれあい道徳(授業公開)を年1回実施する。 ・人権学習や平和学習を行い、人権・同和教育 や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティと連携し体験活動を充実させる。	A	・ふれあい道徳(授業公開)を6月16日に実施した。保護者の参加率は8796だった。 ・平和学習は、各学年が系統的に作成された教材を用いることで、児童一人ひとりが平和について深く考える時間となった。職員研修の中で行った学年グルーブ別の教材研究の成果が見られた。		•			道徳教育(小野原) 人権・同和教育(渕里 Heart部
	●いじめの早期発見、早期対応に向け た取組の充実	〇いじめ防止(いじめの定義、いじめの 防止等の取組、事案対処等)について 組織対応ができていると回答した教員9 0%以上	・気になる子の連絡会を中心に問題行動やいじめ等について共通認識・共通理解のもと組織的に対応にあたる。 ・QU結果の分析活用、心のアンケートの実施やいじめの対応についての研修・会議を実施す	A	・いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等の取組、事業対処等)について組織対応が定ていると回答した教員は100%だった 日々の子どものようすの情報を提加らいしめ間差を繋加し、担任を中心に対応できた。また必要に応じ組織的に対応にあたった。 ・(のサスト)の結果分析を行い、その後の学級の児童支援や学級経営に活かせた。		•		•	教育相談(山口ゆ) 生徒指導(小野原) Heart部
		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童に将来の夢や目標を持たせるための体験活動や授業を実施する。 ・学習や体験活動で、児童に活動のめあて ・見童に、学びのふり返りを行う活動を仕組む。 ・体験活動後キャリアパスポートを活用し、成長を実感させる。	В	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒は82.3%だった。引き続き、児童生徒のよいところを認める場を設けるようにする。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は87%だった。キャリアバスポートを活用し、道徳や学級活動等を通し目標を持って取り組めるようにしていきたい。		•		•	特別活動(吉谷) 6年担任(木原) Heart部
	<ul><li>⑥自己肯定感や自己有用感を育む教育活動。</li></ul>	・自己肯定感や自己有用感を実感している児童80%以上。	「ほめることから始める」を合言葉に学校生活のあらゆる場面で児童の善行や成長を褒めていく。	В	・「自分には良いところがある」答えた児童は73%で「ない」と 思っている児童が8、7%いる。児童が自分に自信をもてるよ うに、児童個々をしっかり見て、その子の良さを見つけ、ほめ る・認めることを継続していく。		•		•	Heart部
	<ul><li>●「運動習慣の改善や定着化」</li><li>②「望ましい生活習慣の形成」</li></ul>	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒を60%以上にする。②健康的な生活習慣の定着のために「早寝早起き朝ご飯」を推奨する。  ③「健康に良い食事をしている」児童80%以上  ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・一日60分以上運動やスポーツができるように屋休み時間はできるだけ体を動かすように体育委員会が中心に児童に呼びかけを行う。 ・「蛍っこカード」を通して年に2回取り組む。・学校栄養士による月1回の食育の授康委員会による放送などを通して、食の大切さを知らせる。 ・交通指導員の方と連携して、1年生の交通安全教室や3年生の自転車指導を年1回行う。	В	・「昼休みや休み時間は外で元気に遊んでいるか」について 当てはまる、大体当ではまると回答した児童は73%だった。 引き続き、委員会の放送等で呼びかけを行っていく。 ・5・6・9月に「蛍ン子カード」を活用し、早寝早起きの時間を 意識させることができている。 ・学校来養士による食育の授業や、毎日の給食時間の健康 委員会による放送などを通して、食の大切さを知らせた。今 後去、給食マナー雷債の取り組みなどと合わせ、食育を行っていく。 ・1年生女別家に交通安全教室、3年生を対象に自転車教室、 警察音楽隊による講話を行った。また、6年生に対しても中 学進学を見振えて自転車教室を実施した。		•		•	体育主任(田代·神迈 食育指導(山口ゆ) Health部
●業務改善·教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。 〇少なくとも週1日以上は概ね定時に退 勤したと答える職員を80%以上にす る。	・定時退動日、定時退動推進日、強化日等の徹底及び、マイ定時退動日の設定、掲示による全職員での取組と意識改革。 ・職員の歌組と意識改革。 ・職員の勤務時間把握、業務内容把握と改善のための働きかけ。 ・各プロジェクト部長を中心として、コンパクトな行事運営を念頭においた取組の提案と実践。	В	・年度当初に全職員で退動時間を確認した。また、モニターや掲示物等を使った啓発や職員個々への言葉かけを行った。概ね退動時間を守れたと答えた職員は57、2%であった。今後はマイ定時退動日などの取り組みを行っていく。・時間外動務時間が多くなっている職員には、言葉かけをし、業務内容の把握や改善のための助言を行った。今後も継続していく。・各行事の前にはプロジェクト長と業務改善の視点で不事内容の計画を立てるようにした。今後も継続して、意識を高めていく。		•		•	管理職(教頭)
本年度重点的に取り組む独	自評価項目			'						
	重点取組		E // 45.75.60	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の充実		○校内研修を通して、特別支援教育に関する知識や技能が向上した教員を9 ○%以上にする。	<ul><li>・専門機関と連携して職員研修を行う。</li><li>・個別の支援計画を作成し、個に応じた支援指導を行い、必要に応じてケース会議を行い共通理解を図る。</li><li>・支援学級の授業を参観し、専門的スキルを学ぶ。</li></ul>	В	・専門機関と連携し講師を招聘し職員研修を行った。 ・中学校進学に向けて各進路先の中学校見学に行き、ス ムーズに進学できるように取り組んだ。また、毎週支援を要 する児童について情報交換をし、全職員で共通理解を図るこ とができた。 ・定期的にケース会議を開き共通理解を図り取り組んだ。	-	•		•	特別支援CO(井上) 特別支援学級担任()
		○防犯ブザー所持率100%、自転車のヘルメット の着用率100%。 ○危候状況や安全対策に対する理解を深め緊 急の場合自分はどうしたらよいかわかる児童 90%	・防犯ブザー所持点検を毎月行い、自転車について は保護者への啓発や交通安全教室等を実施して徹 底を図る。 ・避難訓練において事前・事後指導を確実に行い、危 隊予知能力の向上をめざす。	В	・防犯ブザー所持検査を毎月行うことができなかったため、2 学期は毎月初めの安全点検と同じ日に行うようにする。 ・交通安全教室は、予定通り実施することができた。 ・避難訓練は予定通り実施し、防災意識を高めることができ た。					安全教育(相原) Heart部

●・・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望